

**C級
向け企画**

やってしまうと
非常にイタイ

スクラッチヲ 回避セヨ!



松野剛明

Takeaki Matsuno

JPBA32期生(1998年プロ入り)。
2022年関東オープン9位タイ、2011年
グランプリイースト第6戦3位タイ、2004
年全日本オープンローテーション選手
権準優勝、Pool&Darts Triggerを経営。

手球の走るコースがよくわかっていないC級は、
スクラッチの頻度が高い。

スクラッチは相手にフリーボールを与えてしまうため、非常に不利。
スクラッチしそうな代表的な配置、そしてそれを回避するための
とっておきの方法を松野プロに教えてもらった。

取材・文／栗本由美 取材協力／Pool&Darts Trigger ユーカリが丘店(千葉県・佐倉)

QUESTION

スクラッチしてしまうのはどれ？

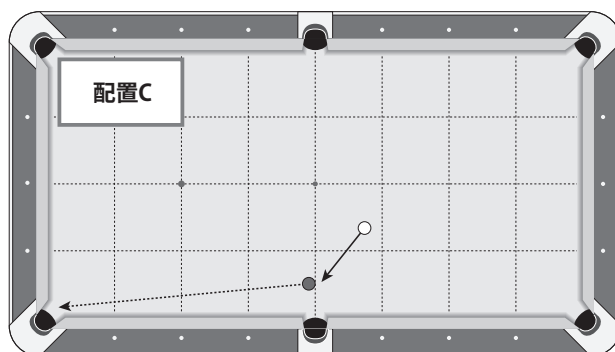
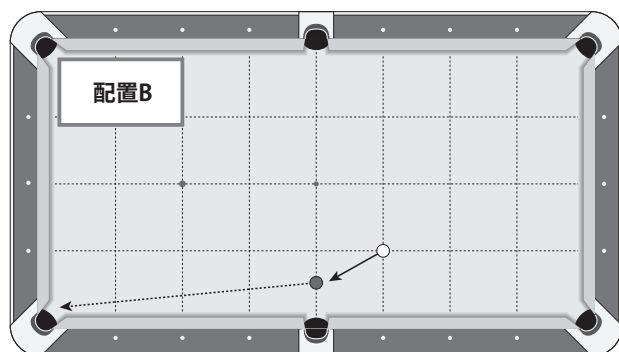
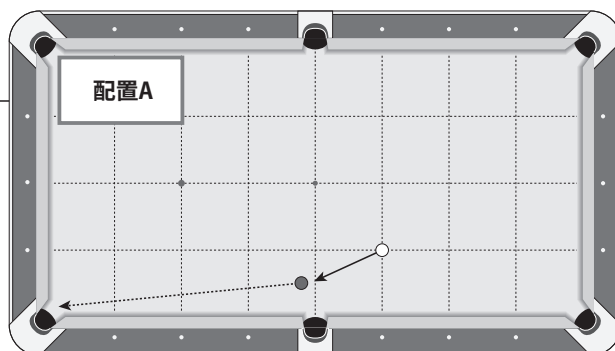
いきなりクイズです。

この3つの配置の中で、撞点や力の強弱を変えてもサイドスクラッチを回避するのが難しいのはどれでしょう？

スクラッチを回避するには、まずスクラッチしてしまう配置を知っておく必要がある。

どの配置がスクラッチ不可避で、どの配置はどの撞点をどんな風に撞けばスクラッチを回避できるだろうか。

ページをめくったところに正解を掲載した。めくる前にまず考えてみてほしい。



Interview

的球の動きと手球の動きはセットで考える

——スクラッチをしてしまう最大の原因はなんですか？

松野剛明プロ（以下、松） 手球の行き先（走る方向）がわかってないから、ですね。もちろんそれは厚みが正確で的球が入ることが前提の話です。厚みが間違っているのに入っているのに、スクラッチしたかどうかを議論しても仕方ないですからね。

——JPAでコーチングしてもスクラッチしてしまうこともありますよね。

松 まさにそれです。JPAでいうとSL2、3、4あたりのビギナーやC級のレベルだと、厚みの精度が低いために、「的球が入ればスクラッチはしない」コースをアドバイスしても、的球が入らないからスクラッチしてしまうというケースは多々見受けられますね。厚み（的球の動く方向）と手球の動く方向は当然相関関係がありますから、セットで考える必要があります。C級の人で、ポジションを少し考えるようになった人が的球を外しているのに「手球は良いところに來てるんだけどなあ」と言っているのを見かけますが、手球の行方は的球の動きに影響されるので、的球が入っていないのにポジションの話をするのは不毛です。

——スクラッチは試合においてどれほどのダメージがあるのでしょうか。

松 相手にフリーボールを与えるという意味では他のファウルと同じですが、的球が入ってスクラッチすると“損した気分”になって精神的にダメージが大きいことはありますね。あと、隠れている球に当てることができないファウルはある意味仕方ないと思えたりしますが、スクラッチは回避できるものだから、当たらないファウルよりダメージが大きいかも知れませんね。

手球の動きを理解しつつ典型的なスクラッチパターンを知る

——スクラッチはどのように回避すれば良いのでしょうか？

松 そうですね。裏技的なものはあまりないですね。やはり「手球の動きを理解する」ことに尽きます。練習して覚えていくしかないでしょうね。練習の時に常に的球の行方と同時に手球の動きを意識するようにすると良いです。あとは、スクラッチしやすい典型的なパターンをいくつか覚えておくと、試合でのスクラッチは減ると思います。スクラッチしそうな球を判断する技や効率的な練習方法は後ほどご紹介します。

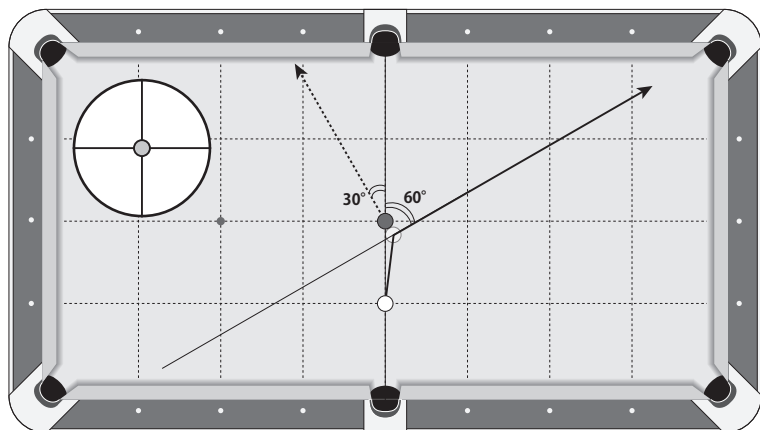


手球の動きを知ろう

スクラッチを回避するためには、手球の動きやスクラッチする配置を知っておくことが大事と前ページで説明しました。

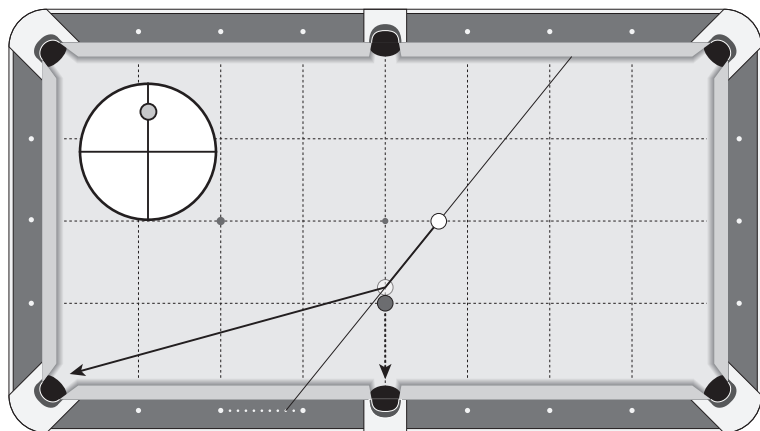
ここでは、手球の動きの基本的な考え方や、覚えておく便利なスクラッチ見極め方などを紹介します。

>> 基本的考え方「球半分の厚みの的球と手球の行き先は？」



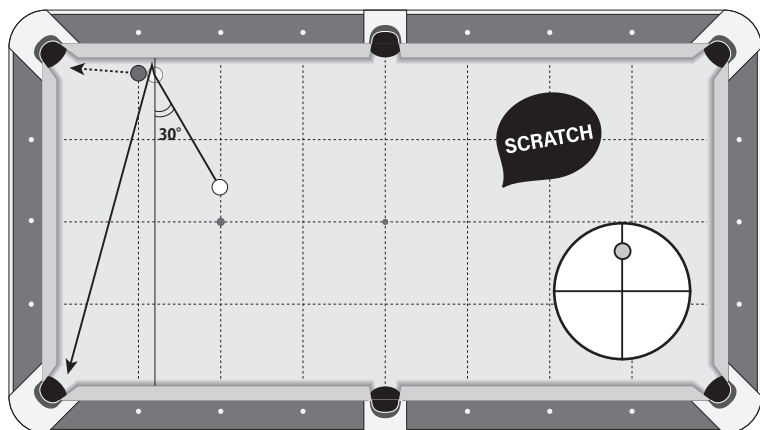
的球の1/2の厚さに無回転で当てた場合は、左の図のような動きになる。的球は約30度の方向に進み、手球は約60度の方向に進む。合計すると90度となる、いわゆる「90度分離」の法則だ。上を撞くと手球はおおよそ45度、下を撞くと90度の方向に進む。手球の動きを意識して練習していると、そのうち「スクラッチしよう」という気配が少しずつわかってくるようになる。

>> 即使える秘技「1.2ポイントの法則でスクラッチを見極める！」



的球が両サイドポケットを結んだ線付近にある時に使える秘技。的球をサイドポケットに入れる時に手球がコーナースクラッチするかどうかを見極める方法だ。手球とイメージボールを結んだ延長線がサイドポケットから数えて1.2ポイント辺りになる場合は上撞点でコーナースクラッチする可能性が高い。下を撞けばスクラッチを回避できる。的球がサイドポケットから1.5ポイント辺りまでであれば通用する法則だ。あくまでもサイドポケット真ん中から入った場合であり、薄めいっぱいからや厚めいっぱいから入った場合は当然手球の動く方向も連動して変化する。

>> あるある事例「典型的スクラッチパターン」



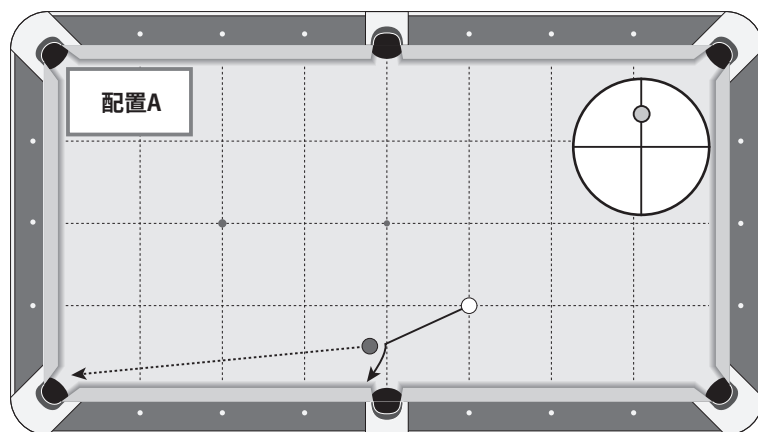
的球が長クッション1ポイントでレールからちよつと浮きの場合、的球とイメージボールの接線と手球のラインが30度ぐらいたと、手球は逆方向のコーナースクラッチしやすい。C級にとっては、「せっかく入ったのにスクラッチ!」というパターンなので、こういう場合は真ん中またはそれより下を撞くようにしよう。

40ページのQuestionに対する正解は？

40ページのクイズの正解は「配置C」。

配置A、Bも撞き方によってはスクラッチするので、それぞれスクラッチを回避する撞点や撞き方を解説します。

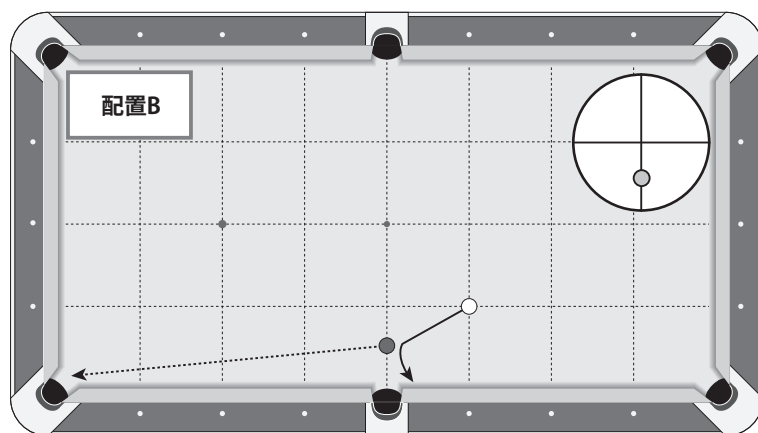
>> 転がすようにゆっくりと上を撞く



的球がサイドポケットより微妙に向こう側にある配置。ゆっくりと上を撞く（押す）と、サイドポケットより向こう側に手球を落とすことができる。上撞点を撞いても、弾くようにパチンと撞くと手球が前に行かずに横に滑ってスクラッチすることもあるので、あくまでも転がすように撞く。

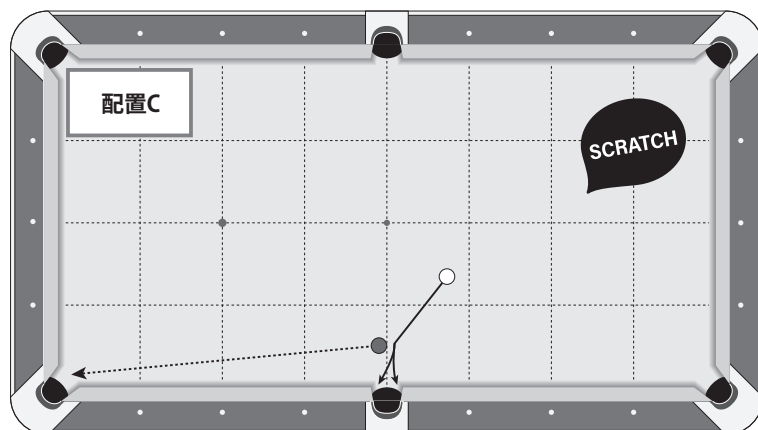


>> 下をしっかりと撞いて引きをかける



ほぼサイドポケットを結んだライン上に的球がある配置。この場合、真ん中や上撞点だとスクラッチしてしまうので、下をしっかりと撞いてサイドポケットより手前側の長クッションに手球が返ってくるようにする。下を撞いていても引き（逆回転）がかかっていないとスクラッチする可能性があるので、しっかりと撞くことが重要。

>> 撞点でスクラッチを回避することは難しい



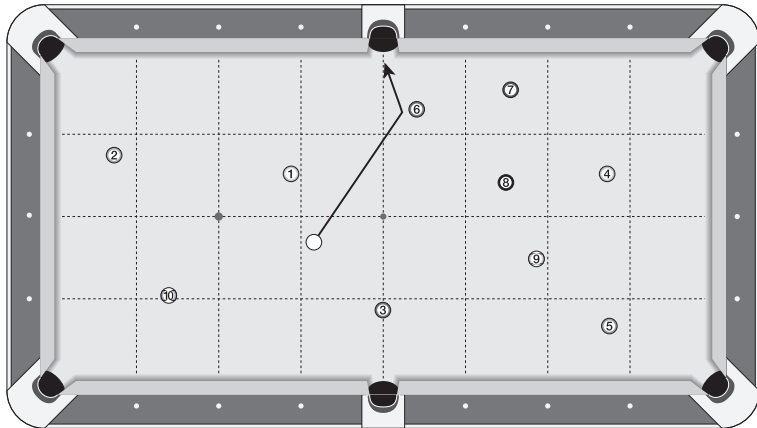
配置Aや配置Bとの違いが微妙だが、厚みが薄い場合、撞点によって手球の方向を大きく変化させることは難しい。サイドポケットは正面からなら球2個分の広さがあるため、この配置の場合、撞点だけでスクラッチを回避するのはあきらめた方がよい。その他の球の配置や試合展開にもよるが、セーフティなど選択自体を見直そう。上記2つの配置との微妙な違いを物理的に説明するのは非常に難しい。何度も撞いて自分なりに危険を察知できるようにしておきたい。

楽しみながら手球の動きを覚えよう

手球の動きを知るには的球がポケットすることばかりを考えてはいっこうに覚えられません。
ここでは、手球の動きを効率的に知ることができる練習方法を2つ紹介します。

>>その1

対戦形式で楽しみながら手球の動きを覚える「スクラッチゲーム」



〈ルール〉

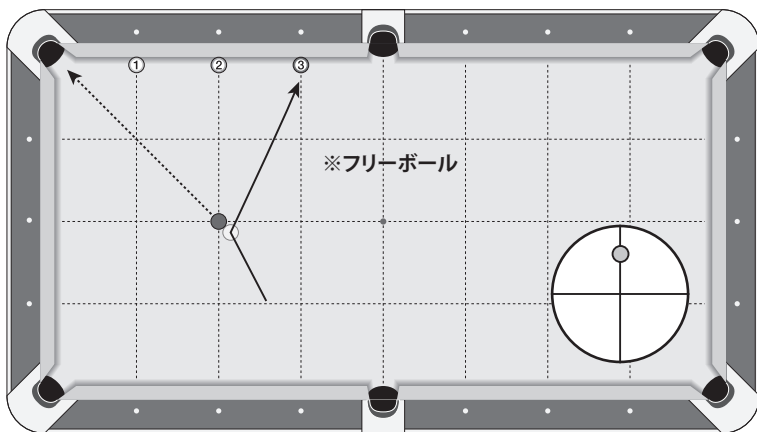
1. 使用する球は 10 個。ボウラードのようにブレイクする。
2. ブレイクで球が入っても入らなくてもブレイクした人が手球フリーからスタート。
3. 手球をスクラッチさせると 1 点。的球が入るか入らないかは関係ない。
4. スクラッチさせることができれば手球を戻し、またフリーボールから始める。失敗したら相手に交代する。
5. これを繰り返し、先に決めた点数に到達した方が勝ち。

- 最初は 5 点先取りぐらいの少ない点数か始めてみよう
 - 的球と手球を同じポケットに落とす（全厚で押す）のは NG
 - 手球と的球両方落とせたら得点倍や、キャノンショットで的球を落とすのも OK など、ローカルルールを作っても面白い
- ※キャノンショット：手球を第 1 的球に当てた後、再度手球を第 2 的球に当てて第 2 的球を落とすショットのこと



>>その2

1人で練習できる「的当てゲーム」



1. 的球をフットスポットに置き、①②③を左の図のようにクッションに付けて 1 ポイント、2 ポイント、3 ポイントの位置に置く。
2. 手球はフリーでそれぞれ①②③に当たるように置く。

※的球が入ってなおかつ手球が的に当たったら 1 点、2 球連続で当たったら得点倍など、自分でルールを決めて挑戦してみよう。手球が的に当たっても、的球がポケットでなかった場合は得点にはならない。

